

第 1 1 6 回 幹 事 会

平成 2 3 年 2 月 2 4 日

日 本 学 術 会 議

第116回幹事会（平成23年2月24日（木））13:30～

議事次第

（公開審議）

Ⅰ 前回議事要旨確認

Ⅱ 諸報告

Ⅲ 審議事項

- | | |
|-----------|--|
| 1 委員会関係 | 提案1 分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定 |
| 2 提言等 | 提案2 提言「我が国の子どもの成育環境の改善に向けて－成育方法の課題と提言－」 |
| 3 団体等の指定 | 提案3 日本学術会議協力学術研究団体の指定 |
| 4 国際会議関係 | 提案4 アジアの老齢人口における政策研究及びデータニーズに関するカンファレンスへの会員の派遣
提案5 G8学術会議への会員の派遣（⇒非公開に変更） |
| 5 シンポジウム等 | 提案6- （シンポジウム等7件）
12 |
| 6 イベント等 | 提案13 科学・技術フェスタ in 京都 2011 |
| 7 後援 | 提案14 国内会議 |
| 8 その他 | GYA総会への会員の派遣について（報告） |

Ⅳ その他

今後の予定
次回は3月17日（木）13時30分から開催

（非公開審議）

Ⅴ 非公開審議事項

- | | |
|---------|----------------------------------|
| 1 委員会関係 | 提案15 分野別委員会における分科会委員（特任連携会員）の決定等 |
| 2 その他 | |

資料2

第116回幹事会（2月24日）出席者一覧

会長	金澤 一郎
副会長	大垣 眞一郎
副会長	鈴木 興太郎
副会長	唐木 英明

第一部 部長	広渡 清吾
第一部 副部長	小林 良彰
第一部 幹事	木村 茂光
第一部 幹事	山本 眞鳥

第二部 部長	浅島 誠
第二部 幹事	山本 正幸
第二部 幹事	鷺谷 いづみ

第三部 部長	岩澤 康裕
第三部 副部長	後藤 俊夫
第三部 幹事	池田 駿介
第三部 幹事	永宮 正治

事務局長 齋藤 敦

第 1 1 5 回幹事会議事要旨

日 時 平成 2 3 年 1 月 2 7 日 (木) 1 3 : 3 0 ~ 1 4 : 3 5

場 所 日本学術会議大会議室

出席者 (会 長) 金澤 一郎

(副会長) 大垣眞一郎、鈴木興太郎、唐木 英明

(第一部) 広渡 清吾、小林 良彰、木村 茂光、山本 眞鳥

(第二部) 浅島 誠、北島 政樹、山本 正幸、鷺谷いづみ

(第三部) 岩澤 康裕、後藤 俊夫、池田 駿介

(事務局長) 齋藤 敦

(事務局次長) 綱木 雅敏

(課長等) 清水 誠、上平 春樹、廣田 英樹、石原 祐志、渡部 良一、
影山 洋一

審議事項等

1 前回議事要旨等の確認が行われた。

2 以下の公開審議が行われた。

- (1) 選考委員会における分科会委員 (4 件)、国際委員会における分科会委員 (1 件)、大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会における分科会委員 (1 件)、科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会委員 (1 件)、研究にかかわる『評価システム』の在り方検討委員会委員 (1 件) が決定された。
- (2) 定年により退任する金澤一郎会員 (平成 23 年 6 月定年)、廣瀬和子会員 (平成 23 年 6 月定年)、片山倫子会員 (平成 23 年 7 月定年)、北島政樹会員 (平成 23 年 8 月定年) の補欠の会員候補者を推薦する部について、推薦する部 (金澤一郎会員、片山倫子会員及び北島政樹会員については第二部、廣瀬和子会員については第一部) を決定した。なお、金澤会長より、「前任者の専門分野等を考慮して補欠の会員の候補者の推薦を依頼する部を決定する」との幹事会申合せについて問題提起があり、審議の結果、次回以降の幹事会で幹事会申合せを改正することとなった。
- (3) 日本学術会議協力学術研究団体の指定 (8 件) が承認された。
- (4) 学術刊行物の指定 (5 件) が承認された。
- (5) 第 21 回国際科学会議科学計画評価委員会 (21th Meeting of the ICSU Committee on Scientific Planning and Review (CSPR)) 及び国際科学会議 Foresight Workshop 出席に係る会員の派遣が承認された。
- (6) 第 1 回 Conference for Young Scientists & GYA 総会への会員の派遣が承認された。
- (7) 18 件のシンポジウム等の主催、4 件の国内会議の後援が承認された。
- (8) その他事項として、次のことについて報告がなされた。
 - ・金澤会長から、諮問「科学技術に関する基本政策について」に対する総合科学技術会議の答申について報告があった。
 - ・事務局長から、平成 2 3 年度日本学術会議予算案及び事務局から送信される

メールの添付ファイルの自動暗号化機能の導入について報告があった。

3 以下の非公開審議が行われた。

- (1) 分野別委員会における分科会等委員（7件）及び分科会委員（特任連携会員）の任期の延長（2件）が決定された。
- (2) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会における分科会委員（特任連携会員）（2件）が決定された。
- (3) その他事項として、次のことについて決定及び報告等がなされた。
 - ・臨時総会を平成23年7月11日（月）に開催することが決定された。
 - ・金澤会長から、4月の総会日程（案）について説明があった。
 - ・企画課長から、会員候補者の各部の選出人数について選考委員会による案の説明があり、同意が得られた。
 - ・事務局長から、委員手当の執行状況について報告があった。
 - ・金澤会長から、若者の就職をめぐる問題についての会長談話（案）が提示され意見交換が行われた。

第115回幹事会（平成23年1月27日（木））13:30～

議事次第

（公開審議）

I 前回議事要旨確認

II 諸報告

III 審議事項

1 委員会関係

提案1 選考委員会における分科会委員の決定

提案2 国際委員会における分科会の委員の決定

提案3 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会における分科会委員の決定

提案4 科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会の委員の決定

提案5 研究にかかわる『評価システム』の在り方検討委員会の委員の決定

2 選考関係

提案6 補欠の会員の候補者を推薦する部の決定

3 団体等の指定

提案7 日本学術会議協力学術研究団体の指定

提案8 学術刊行物の指定

4 国際会議関係

提案9 第21回国際科学会議科学計画評価委員会（21th Meeting of the ICSU Committee on Scientific Planning and Review (CSPR)）及び国際科学会議Foresight Workshop出席に係る会員の派遣

提案10 第1回Conference for Young Scientists & GYA総会への会員の派遣

5 シンポジウム等

提案 11-27 （シンポジウム等17件）

6 後援

提案28 国内会議

7 その他

事務局より報告

- ・平成23年度予算案について
- ・事務局から送信されるメールについて（メールの添付ファイルの自動暗号化機能の導入について）
- ・諮問第11号「科学技術に関する基本政策について」に対する答申（抜粋）について

IV その他

今後の予定
次回は2月24日(木)13時30分から開催

(非公開審議)

V 非公開審議事項

- 1 委員会関係
 - 提案29 分野別委員会における分科会等の委員（特任連携会員等）の決定等
 - 提案30 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会における分科会委員（特任連携会員）の決定
- 2 その他
 - 提案31 臨時総会の開催について
 - 4月の総会日程（案）について
 - 会員候補者の各部選出人数について
 - 事務局より報告
 - 委員手当の執行状況について

諸 報 告

	ページ
第 1 前回幹事会以降の経過報告	
1 会長等出席行事	1
2 会長談話	1
3 審議付託等	2
4 賞等の推薦	2
第 2 各部・各委員会等報告	
1 部会の開催とその議題	3
2 幹事会附置委員会の開催とその議題	3
3 機能別委員会の開催とその議題	3
4 分野別委員会の開催とその議題	4
5 課題別委員会の開催とその議題	10
6 サイエンスカフェの開催	11
7 総合科学技術会議報告	11
8 慶弔	12

第 1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
1 月 27 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長
1 月 28 日 (金)	日本学術会議東北地区会議 地域振興・東北地区フォーラム (仙台) ※開会挨拶	金澤会長、齋藤局長
2 月 3 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長
2 月 4 日 (金)	井上科学技術振興財団賞贈呈式 ※会長祝辞代読	鈴木副会長
2 月 10 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	齋藤局長
2 月 16 日 (水)	表敬訪問 チェコ科学アカデミー ドラホシュ総裁	金澤会長、唐木副会長、綱木次長
2 月 17 日 (木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、齋藤局長

2 会長談話

「若者の就職問題」についての会長談話

今春卒業予定の大学生の就職内定率が、調査を開始した 15 年前以降で最低の水準にあることが大きく報道されています。卒業後の就職先が未定なままの大学生の皆さん、あるいは前年度までの卒業生で、いまなお就職活動を継続している人達、さらには高校生の就職未定者の諸君など、多くの若者が苦しい状況に身を置いている現状に、心を痛めています。

昨年 7 月、日本学術会議は文部科学省からの審議依頼に応じて「大学教育の分野別質保証の在り方について」と題する報告書を取りまとめ、若者の就職をめぐる近年の厳しい状況を直視して、大学教育と職業選択との接続の在り方に関する提言を行いました。特に、例えば卒業後 3 年ほどの学生は「新卒」扱いにするなど、企業の採用要件の緩和について提言した考え方は、メディアでも大きく取り上げられました。政府も、昨年から各種の対策を一層積極的に打ち出していると思います。日本学術会議の提言に呼応するように、経済界においても、採用活動の過度の早期化の見直しや、既卒者の採用を拡大する動きが出ているのは、大いに歓迎すべき進展であると考えています。今後もこのような取組みが、各方面で強化されることを切望しています。

振り返ってみれば、就職活動の過度の早期化傾向は、大学における本来の学びを就職活動が阻害する危険性が高く、大学本来の在り方に照らして大きな問題があると考えざるを得ません。近視眼的な「就活」対策ではなく、専門分野の教育を含めた教育全体の職業的意義を向上させ、学生諸君が主体的に自らの将来を選び取り実現していく潜在的な可能性を拡大するために、大学としても必要な措置をさらに充実して行くことが求められています。日本学術会議としても、各大学の取組みを積極的に支援していきたいと思ひます。

当事者の学生の皆さんに対しても、考えて欲しいことがあります。第1に、早期の「就活」を理由にして、大学ならでこそ可能な深い学びをおざなりにすることは、二度とない貴重な時間を浪費する危険性が高いことを十分に理解して欲しいと思ひます。第2に、大学卒業後も3年の間は新卒扱いになったとしても、この期間を漫然と過ごすのではなく、自らの見聞や見識を高めるために有意義に活用して欲しいと思ひます。短期であっても留学などによって海外の異文化に触れて見聞を広める、あるいはボランティア活動に参加して他の世代や他の地域の人々と深く交わる経験から学ぶなど、この期間を活用して人生を豊かに充実させる可能性はいくらでもある筈です。若い人達が、自ら課題を発見して積極的に挑戦する姿勢を示すことに呼応して、経済界のみならず政府や大学などがその努力を適切に評価することに、私は期待したいと思ひます。このような好循環が生まれることによって、若い世代の就職問題が少しでも良い方向に回り始めることを、心から願っています。

平成 23 年 2 月 2 日
日本学術会議会長
金 澤 一 郎

3 審議付託等

件 名	申 請 者	審議付託先
第 11 回グリーン・サステイナブル ケミストリーシンポジウム	グリーン・サステイナブル ケミ ストリーネットワーク会長	第三部
呼吸の日記念フォーラム 2011	社団法人日本呼吸器学会理事長 社団法人日本医師会会長 公益財団法人結核予防協会理事 長	第二部
日本学術会議協力学術研究団体の指 定	ライフサポート学会他	科学者委 員会

4 賞等の推薦

件 名	照 会 先	備 考
2012 Millennium Technology Prize	各部	照会中

第2. 各部・各委員会等報告

1 部会の開催とその議題

(1) 第三部拡大役員会（第31回）（1月28日）

- ①第6回理学・工学系学協会連絡協議会幹事会について
- ②河川流出モデル・基本高水評価検討等分科会について
- ③第三部主催公開シンポジウム（8/24）について
- ④平成23年度第三部夏季部会について
- ⑤会員・連携会員選考について
- ⑥大型施設計画・大規模研究計画の第三回調査結果について
- ⑦各分野別委員会の活動状況について
- ⑧日本学術会議の機能強化について
- ⑨今後の第三部拡大役員会等の日程について
- ⑩その他

(2) 第二部会（第9回）（2月1日）

- ①幹事会報告について ②分野別委員会からの報告について
- ③本日の公開シンポジウムについて
- ④夏期部会・公開シンポジウムに向けての対応等について
- ⑤学術の大型研究計画について ⑥次期会員・連携会員の選考について
- ⑦補欠の会員の候補者の推薦について ⑧第4期科学技術基本計画について
- ⑨政府への提言等に向けての考え方について ⑩その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

(1) 若手アカデミー委員会若手アカデミー活動検討分科会（第6回）（2月9日）

- ①総合科学技術会議相澤議員の講演及び同議員との意見交換
- ②若手アカデミー活動の今後のあり方について
- ③その他

(2) 若手アカデミー委員会若手アカデミー活動検討分科会（第7回）（2月21日）

- ①独立行政法人科学技術振興機構北澤理事長の講演及び同理事長との意見交換
- ②若手アカデミー活動の今後のあり方について
- ③その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) 科学と社会委員会年次報告等検討分科会（第12回）（1月31日）

①外部評価委員からの評価聴取 ②その他

(2) 科学者委員会学術の大型研究計画検討分科会 (第17回) (2月7日)

- ①委員自己紹介 (新委員紹介)
- ②第3回調査結果の検討と取りまとめ分担について
- ③今後の進め方について ④その他

(3) 科学者委員会 (第35回) (2月15日)

- ①協力学術研究団体の指定(各部回答) ②協力学術研究団体の指定 (各部への検討依頼)

(4) 科学者委員会学術統計検討分科会 (第6回) (2月21日)

- ①報告書の構成について ②今後の進め方について ③その他

(5) 国際委員会国際会議主催等検討分科会 (第4回) (2月21日)

- ①ヒアリング審査・選定についての事務説明
- ②平成25年度共同主催申請国際会議ヒアリング審査
- ③審議・選定
- ④その他

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 社会学委員会・経済学委員会合同包摂的社会政策に関する多角的検討分科会 (第8回) (1月28日)

- ①報告事項
 - 1) 学術会議の動向について 2) その他
- ②協議事項
 - 1) 6月25日のシンポジウムについて 2) その他

(2) 心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同高校地理歴史科教育に関する分科会 (第10回) (1月29日)

- ①高校地理・歴史科教育の改革提言案をめぐって ②その他

(3) 社会学委員会社会福祉学分科会 (第13回) (1月29日)

- ①報告書について ②その他

(4) 社会学委員会 (第6回) (1月30日)

- ①各分科会の活動報告 ②社会学コンソーシアムの活動状況
- ③第1部大型研究計画について ④その他

- (5) 経済学委員会資産市場とマクロ経済分科会 (第5回) (2月7日)
①今後の進め方について ②その他
- (6) 法学委員会「IT社会と法」分科会 (第4回) (2月9日)
①各委員の担当テーマの決定と全体構想について ②その他
- (7) 社会学委員会社会福祉学分科会 (第14回) (2月11日)
①提言のまとめについて ②その他
- (8) 法学委員会親密な関係に関する制度設計分科会 (第4回) (2月14日)
①報告：「制度設計への関心登場の背景」(三成委員)
②その他
- (9) 法学委員会「グローバル化と法」分科会 (第10回) (2月14日)
①本日のシンポジウムについて ②今後の審議のあり方について ③その他
- (10) 経営学委員会経営学教育の在り方検討分科会 (第5回) (2月19日)
①「経営学教育の在り方検討分科会提言ー学士課程教育における経営学教育の質保証に向けてー」の最終検討案の作成について
②今後のスケジュールについて
③本日のシンポジウムの総括について ④その他
- (11) 心理学・教育学委員会心の先端研究と心理学専門教育分科会 (第5回)
(2月19日)
①日本学術会議の大型研究マスタープラン申請について
②WISH事業の今後の進め方(説明者：亀田達也連携会員)
③平成23年度の事業予定 ④その他
- (12) 経営学委員会 (第4回) (2月19日)
①「経営学教育の在り方検討分科会」の今後の活動について
②日本学術会議の機能強化について：分野別委員会からの意見提出について
③会員推薦について ④その他
- (13) 史学委員会歴史認識・歴史教育に関する分科会 (第12回)・言語・文学委員会・哲学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同アジア研究・対アジア関係に関する分科会 (第8回) 合同分科会 (2月23日)
①「アジア史研究の『国際化』と若手育成」岸本 美緒委員
②「日本史と世界史のはざま」村井 章介委員
③その他

第二部担当

- (1) 心理学・教育学委員会・基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同行動生物学分科会 (第3回) (1月28日)
 - ①前回サイエンスカフェの報告について
 - ②本日のサイエンスカフェについて ③行動生物学辞典の編集企画について
 - ④学術の動向の特集について ⑤その他
- (2) 基礎医学委員会、健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会 (第8回) (1月28日)
 - ①提言の取りまとめ (案)
 - 1) 健康食品について 2) 医師の過重労働について
 - ②その他
- (3) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同動物科学分科会 (第3回) (1月31日)
 - ①分科会主催公開シンポジウムについて ②その他
- (4) 農学委員会 (第8回) 食料科学委員会 (第6回) 合同会議 (2月1日)
 - ①農学委員会・食料科学委員会の今後の方針について
 - ②その他
- (5) 心理学・教育学委員会、臨床医学委員会、健康・生活科学委員会、環境学委員会、土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会 (第14回) (2月4日)
 - ①成育時間に関する提言の取りまとめについて
 - ②成育方法の審議状況について ③今後の進め方 (スケジュール) について
 - ④その他
- (6) 農学委員会 P S A 分科会 (第2回) (2月5日)
 - ①太平洋学術会議畑井メダル授与について ②その他
- (7) 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分科会 (第5回) (2月6日)
 - ①本日の公開シンポジウムの準備状況と進行について
 - ②人類学の教育について ③その他
- (8) 臨床医学委員会感覚器分科会 (第9回) (2月8日)
 - ①過去2回の市民公開講座の「日学新書 No. 2」の刊行予定
 - ②平成23年5月21日日本耳鼻咽喉科学会総会 (京都、会長:伊藤壽一京大教授)

直後の市民公開講座について

「加齢と眼と耳の病気－予防と最新の治療」、演者：眼科・石橋、松村、耳鼻科・加我、細井（奈良県立医大）

③平成 23 年のロードマップ中間検討会（8 月 9 日（火）午後 2 時）について

④その他

（9）心理学・教育学委員会、臨床医学委員会、健康・生活科学委員会、環境学委員会、土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会成育空間に関する政策提案検討小委員会（第 13 回）（2 月 8 日）

①省庁モニタリング結果について ②提言の内容について ③その他

（10）基礎医学委員会、健康・生活科学委員会合同パブリックヘルス科学分科会（第 9 回）（2 月 15 日）

①提言の取りまとめ（案）

1）社会健康格差について 2）公衆衛生大学院について

②その他

（11）臨床医学委員会臨床研究分科会（第 4 回）（2 月 15 日）

①ライフサイエンス P T の「臨床研究の総合推進に向けた検討（第一次とりまとめ）」について（松澤佑次委員）

②今後の方針等について ③次回の日程について ④その他

（12）臨床医学委員会障害者との共生分科会（第 12 回）（2 月 16 日）

①提言書のまとめについて ②その他

（13）歯学委員会歯科医療制度に関する検討分科会（第 3 回）（2 月 21 日）

①次回公開シンポジウムの内容について

②今期の分科会活動取りまとめについて ③その他

（14）歯学委員会歯学教育分科会（第 4 回）（2 月 21 日）

①歯学教育の問題点と改善方策について ②その他

（15）基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同遺伝学分科会（第 3 回）（2 月 23 日）

①遺伝学研究の今後の方向性 ②遺伝学における若手研究者のキャリアパス

③遺伝学教育 ④遺伝学と社会 ⑤その他

第三部担当

（1）環境学委員会（第 9 回）（1 月 28 日）

- ①『これからの環境学』（仮）のための第3回ミニレクチャー
発表者：進士委員長、淡路委員、桑野委員、安成委員、内山委員
- ②その他

(2) **総合工学委員会工学基盤における知の統合分科会**（第10回）（1月28日）

- ①課題別委員会『社会のための学術としての「知の統合」推進委員会』報告
- ②報告書作成に向けて
- ③今後の活動に関して
課題別委員会における「重要課題の解決に向けたイノベーションの創出」の議論に向けて
- ④その他

(3) **電気電子工学委員会制御・パワー工学分科会**（第5回）（1月31日）

- ①制御・パワー工学分科会報告書について
- ②「電気電子工学のあり方」における制御・パワー工学のあり方
- ③今後の活動方針 ④その他

(4) **物理学委員会**（第13回）（1月31日）

- ①報告事項
 - 1) 三部拡大委員会（2011.1.28開催分も含む）
 - 2) 各分科会報告
 - A) 大型プロジェクトに関する分科会
 - B) 学術統計検討分科会
 - C) その他
 - 3) 学会との連携シンポジウム
 - 4) 会員、連携会員の推薦の入力について
 - 5) その他
- ②審議事項
 - 1) 「夢ロードマップ」の状況と進め方、近況報告と今後の方針
 - 2) 「マスタープラン」改訂と物理系シンポジウム(1/31)について物理学委員会として早急に対処すべき点があれば
 - 3) 学術会議機能強化について 4) その他
- ③その他

(5) **総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会事故死傷者ゼロを目指すための科学的アプローチ検討小委員会**（第9回）（2月1日）

- ①話題提供
 - 1) 「ドライブレコーダ映像からみた運転者・歩行者・自転車等の不安全行動とドライブレコーダの導入効果」大慈彌 拓也氏 日本交通事故鑑識研究

所

2)「ドライブレコーダ活用について：ITS 世界会議の SS 報告等」

堀野委員 神奈川大学工学部

②小委員会のまとめについて

③その他

(6) 地球惑星科学委員会国際対応分科会WDC小委員会 (第3回) (2月1日)

①WDSに関する状況報告 ②学術会議におけるデータ関連委員会の整備

③WDS会議(京都)への取り組み ④その他

(7) 総合工学委員会 (第4回) (2月3日)

①活動報告 ②大型研究計画 ③日本学術会議機能強化 ④理学・工学系学協会
連絡協議会 ⑤第22期会員・連携会員推薦 ⑥今後の活動についての議論

⑦その他

(8) 地球惑星科学委員会地球惑星科学企画分科会 (第15回) (2月3日)

①地質地盤情報共有化に関する提言について

②大型研究計画について ③その他

(9) 機械工学委員会生産科学分科会ものづくり経営科学小委員会 (第6回)
(2月4日)

①生産科学分科会報告書に対する経営科学小委員会としての意見交換

②その他

(10) 機械工学委員会生産科学分科会 (第8回) (2月4日)

①生産科学分科会報告書(ドラフト)に対する有識者の意見聴取

桑原氏 政策科学研究所所長

棕田常務 日本経済団体連合会

②シンポジウムの開催について ③その他

(11) 総合工学委員会未来社会と応用物理分科会 (第5回) (2月9日)

①経過報告 ②提言について ③今後の活動について ④その他

(12) 機械工学委員会機械工学企画分科会 (第8回)・同機械工学ディシプリン分
科会 (第3回) (2月9日)

①分科会合同開催の趣旨について ②話題提供 吉川 弘之氏

③機械工学コミュニティの今後の課題 ④その他

(13) 材料工学・総合工学・機械工学・土木工学・建築学委員会合同グリーンイ
ノベーションの材料分科会 (第2回) (2月17日)

- ①グリーン・イノベーションの材料に関する話題提供
 - 1) 材料（化学）プロセスの立場から（仮題）魚崎浩平
 - 2) グリーンケミストリ（化学レポート）（仮題）井上晴夫
 - 3) 資源と人材の確保戦略（仮題）長井寿
 - 4) セラミックス（ガラス）関連レポート（仮題）牧島亮男
- ②シンポジウムの開催 ③その他

**（14）土木工学・建築学委員会河川流出モデル・基本高水評価検討等分科会
（第2回）（2月18日）**

- ①分科会の進め方 ②流出解析法レビューの実施方法
- ③専門家ヒアリングの実施方法
- ④基本高水算定手法（現行手法および新手法）に関する質疑 ⑤その他

**（15）健康・生活科学委員会・環境学委員会合同環境リスク分科会（第6回）
（2月18日）**

- ①環境リスクにおける人材育成についての報告書のとりまとめについて
- ②その他

（16）化学委員会化学者コミュニティ連携強化検討分科会（第5回）（2月18日）

- ①分科会活動報告 ②J C I I，J C I A訪問、会談報告
- ③活動報告（提言・報告・記録）の取りまとめに関する討議 ④その他

（17）地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会（第8回）（2月22日）

- ①大型研究計画について ②教育への取り組みについて ③その他

（18）土木工学・建築学委員会景観と文化分科会（第13回）（2月22日）

- ①提言のとりまとめについて ②その他

5 課題別委員会の開催とその議題

**（1）大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会学位に付記する専攻分野の名称
の在り方検討分科会（第2回）（1月31日）**

- ①今後の検討の方向性について ②その他

（2）高レベル放射性廃棄物の処分に関する検討委員会役員会（第2回）（2月2日）

- ①今後の進め方について ②その他

（3）高レベル放射性廃棄物の処分に関する検討委員会（第4回）（2月14日）

- ①講演（井野教授） ②講演（船橋委員） ③今後の進め方について
- ④その他

(4) 東アジア共同体の学術基盤形成委員会 (第4回) (2月15日)

①報告のとりまとめについて ②その他

(5) 社会のための学術としての「知の統合」推進委員会 (第3回) (2月16日)

①話題提供 ②提言案について ③スケジュールの確認 ④その他

(6) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会言語・文学分野の参照基準検討分科会 (第2回) (2月17日)

①今後の検討の方向性について ②その他

6 サイエンスカフェの開催

(1) 1月28日 (金) 19:00～20:30

場 所: 文部科学省情報ひろばラウンジ

テーマ: 動物行動の多様性・研究者の多様性

話題提供者: 上田 恵介 (立教大学理学部教授)

岡ノ谷 一夫 (東京大学大学院教授)

実森 正子 (千葉大学文学部教授)

辻 和希 (琉球大学農学部教授)

辻 敬一郎 (名古屋大学名誉教)

長谷川 眞理子 (総合研究大学院大学教授)

ファシリテーター:

長谷川 壽一 (東京大学大学院教授)

(2) 2月18日 (火) 18:30～20:30

場 所: サロン・ド・FUZAMBO Folio

テーマ: 「南海トラフ巨大地震への備え」

ゲスト: 金田 義行 (独) 海洋研究開発機構

コーディネーター: 室伏 きみ子 (お茶の水女子大学大学院教授)

7 総合科学技術会議報告

1. 本会議

第96回 (2月10日)

(1) 最先端・次世代研究開発支援プログラムの研究者・研究課題について

2. 総合科学技術会議有識者議員会合

1月27日 会長出席

2月 3日 会長出席
2月10日 会長欠席
2月17日 会長出席
2月24日 会長出席予定

8 慶弔

○ 慶事

◇ 在日米国商工会議所（A C C J）Person of the Year 2010

黒川 清 （政策研究大学院大学教授） 前会長、第17～20期会員、第20、
21期連携会員

○ ご逝去

黒川 和美（くろかわかずよし）64歳 2月2日 法政大学教授、第20、
21期連携会員

小林 宏行（こばやしひろゆき）77歳 2月19日 杏林大学名誉教授、
第18、19期会員 第7部

審 議 事 項

			頁
Ⅲ 審議事項			
1 委員会関係	提案1	分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定	1
2 提言等	提案2	提言「我が国の子どもの成育環境の改善に向けて－成育方法の課題と提言－」	5
3 団体等の指定	提案3	日本学術会議協力学術研究団体の指定	6
4 国際会議関係	提案4	アジアの老齢人口における政策研究及びデータニーズに関するカンファレンスへの会員の派遣	8
	提案5	G 8 学術会議への会員の派遣 (⇒非公開に変更)	16
5 シンポジウム等	提案6	公開シンポジウム「社会科学統合データベースの構築と課題」	22
	提案7	第2回先端フォトニクスシンポジウム	24
	提案8	公開シンポジウム「グローバル化時代の高校地歴科改革を求めて(仮)」	26
	提案9	生物多様性をめぐる科学と社会の対話in南東北	28
	提案10	労働・雇用と安全衛生に関わる諸システムの再構築を一働く人の健康で安全な生活のために－	31
	提案11	公開シンポジウム「新しい社会的リスクへの対応－比較の中の日本－」	33
	提案12	第7回構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム (JCOSAR2011 : The Seventh Japan Conference on Structural Safety and Reliability)	35
6 イベント等	提案13	科学・技術フェスタ in 京都 2011	37
7 後援	提案14	国内会議	39

1	
幹事会	1 1 6

提 案

分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定について

- 1 提 案 者 (議案(1)について)
史学委員会委員長
(議案(2)について)
第一部部長、第三部部長
- 2 議 案 (1)分野別委員会運営要綱の一部改正（設置期間延長 1 分科会）
(2)分野別委員会の委員会等の委員の決定（3 件）
- 3 提案理由 下記の分野別委員会における分科会の設置期間の延長に伴い運営要綱を一部改正するとともに、委員会等の委員を決定する必要があるため。

分野別委員会運営要綱(平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定)の一部を次のように改正する。次表により、改正前欄の掲げる規定をこれに対応する改正後の欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改 正 後					改 正 前				
別表第1					別表第1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
史学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	史学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	史学委員会歴史学とジェンダーに関する公開シンポジウム準備分科会	公開シンポジウム「歴史教育へのジェンダー視点の導入(題)」開催に向けて (1)テーマの確定 (2)シンポジウムのプログラム決定	12名以内の 会員又は連携 会員	設置期間: 平成22年7 月22日～平 成23年7月 31日		史学委員会歴史学とジェンダーに関する公開シンポジウム準備分科会	公開シンポジウム「歴史教育へのジェンダー視点の導入(題)」開催に向けて (1)テーマの確定 (2)シンポジウムのプログラム決定	10名以内の 会員又は連携 会員	設置期間: 平成22年7 月22日～平 成23年5月 31日
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附則
この決定は、決定の日から施行する。

史学委員会分科会の設置について

分科会等名： 歴史学とジェンダーに関する公開シンポジウム準備分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	史学委員会
2	委員の構成	<u>12名</u> 10名 以内の会員または連携会員
3	設置目的	史学委員会の歴史学とジェンダーに関する分科会が平成21年12月13日に開催したシンポジウム「歴史教育とジェンダー 教科書からサブカルチャーまで」は、大きな反響を巻き起こして終了した。それを継承、発展させるべく、史学委員会は同上分科会を中心に、歴史教育におけるジェンダー視点の導入に関する公開シンポジウムを平成23年 <u>7月</u> 5月 に開催させる企画を立案した。そこで、この企画を準備するための分科会を期間を限定して設置する。
4	審議事項	公開シンポジウム「歴史教育へのジェンダー視点の導入(題)」開催に向けて (1) テーマの確定 (2) シンポジウムのプログラム決定
5	設置期間	期限設置 平成22年7月22日～ 平成23年5月31日
	<u>設置期間延長</u>	<u>平成23年7月31日まで延長</u>
	<u>延長理由</u>	<u>公開シンポジウムの開催が7月になったため</u>
6	備考	

○委員の決定（追加３件）

（心理学・教育学委員会 心の先端研究と心理学専門教育分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
亀田 達也	北海道大学文学研究科教授	連携会員

（総合工学委員会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
井上 孝太郎	（独）科学技術振興機構 上席フェロー	連携会員

（総合工学委員会・電気電子工学委員会合同 IFAC 分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
小林 尚登	法政大学デザイン工学部システムデザイン 学科教授	連携会員
大西 公平	慶応義塾大学理工学部システムデザイン工 学科教授	連携会員

2	
幹事会	1 1 6

提 案

提言「我が国の子どもの成育環境の改善に向けて－成育方法の課題と提言－」

- 1 提 案 者 心理学・教育学委員会委員長、臨床医学委員会委員長、健康・生活科学委員会委員長、環境学委員会委員長、土木工学・建築学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 提言「我が国の子どもの成育環境の改善に向けて－成育方法の課題と提言－」を別添のとおり取りまとめたので、関係機関に対する提言として、これを外部に公表したいため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

3	
幹事会	1 1 6

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長

2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること

3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答すること
としたい。

記

○ 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

- ・ 日本脂質栄養学会
- ・ 人間－生活環境系学会
- ・ 日本臨床政治学会
- ・ 日本顔学会
- ・ 日本リメディアル教育学会
- ・ 日本フィヒテ協会
- ・ 日本昆虫科学連合

※平成 23 年 2 月 24 日現在 1861 団体(上記申請団体を含む。)

※ 団体の概要

- ・ 日本脂質栄養学会

会員相互の交流を深めることにより脂質栄養学の進展を図り、時代に即応した脂質栄養指針を確立し、それに基づいた脂質性食品供給方法の開発を図り、もって健康の維持増進に寄与することを目的としている。

- ・ 人間－生活環境系学会

人間と生活環境に関連する広い分野の知識や技術を有機的に統合し、人間－生活環境系として体系化を図り、健康で快適に活動できる生活環境の実現に努め、人々の生活の質の向上に貢献することを目的としている。

- ・ 日本臨床政治学会

広く臨床政治学（最近の政治状況を調査・分析する学問）に関する研究及びその研究者相互の協力を促進し、かねて外国の学会との連絡を図ることを目的としている。

- ・ 日本顔学会

最近の社会の意識の変化、個性の時代の到来に鑑み、重要性を増している顔に関する研究の発展を期し、あわせて顔学の普及を図ることを目的としている。

- ・ 日本リメディアル教育学会

リメディアル教育（基礎学力を補うための教育、補習教育）に関する研究・開発及び普及を促進し、その発展に貢献することを目的としている。

- ・ 日本フィヒテ協会

フィヒテ哲学を中心とした思想の研究を推進し、会員相互の研讃を図ることを目的としている。

- ・ 日本昆虫科学連合【連合体】

昆虫科学、関連学問分野の研究及び教育を推進し、我が国におけるこの分野の発展と社会的普及に寄与することを目的としている。

*連合体を構成する学術研究団体(14 団体)

日本衛生動物学会、日本応用動物昆虫学会、日本家屋害虫学会、日本環境動物昆虫学会、日本蜘蛛学会、日本昆虫学会、日本蚕糸学会、日本ダニ学会、日本動物学会、日本農芸化学会、日本農薬学会、日本比較生理生化学会、日本野蚕学会、日本鱗翅学会

4	
幹事会	1 1 6

提 案

アジアの老齢人口における政策研究及びデータニーズに関するカンファレンスへの会員の派遣

- 1 提 案 者 国際委員会委員長
- 2 議 案 標記について、下記のとおり承認すること
- 3 提案理由 標記カンファレンスは、米国の国立科学アカデミー (NAS: US National Academy of Sciences) からの提案である。NAS と日本学術会議とは、共に G8 学術会議のメンバーアカデミーであり、インターアカデミー・カOUNシル (IAC: InterAcademy Council) 等の執行部メンバーとして、これまで深い協力関係を築いてきた。本カンファレンスに関連し、昨年5月の開催に関する企画委員会への秋山会員の派遣を実施していること、また、昨年10月には参加アカデミーによるコンセンサス・レポート「アジアの人口高齢化問題への対応: 政策立案における科学的根拠の強化(仮訳)」への会長署名を行っていることなどから、以下のとおり会員を派遣することとしたい。
- 4 派遣者 秋山 弘子 (第一部会員、国際委員会委員)
- 5 用務期間 平成23年3月14日 (月) ～3月15日 (火)
- 6 派遣場所 ニューデリー(インド)
- 7 開催趣旨 本カンファレンスでは、アジア地域における老齢人口の最新傾向を提示するとともに、急速に進む高齢化に対応するための政策立案や立案プロセスにおける科学的成果の活用などに関して、各国から研究者が参集し、発表・協議等を行うこととなっている。
 なお、本カンファレンスは、NAS の人口委員会の委員長 (Director of the Committee on Population) である Dr. Barney Cohen 氏により提案である。本カンファレンスは、昨年の企画委員会(昨年5月、秋山会員派遣)に続き、インド国立科学アカデミー (Indian National Science Academy) がホストとなる(概要等については、添付別紙参照)。

DRAFT AGENDA

**Chinese Academy of Social Sciences
Indian National Science Academy
Indonesian Academy of Sciences
Science Council of Japan
and
U.S. National Academy of Sciences**

**Conference on Policy Research and Data Needs to Meet the
Challenges and Opportunities of Population Aging in Asia**

**Hosted by the Indian National Science Academy
Bahadur Shah Zafar Marg, New Delhi
March 14-15, 2011**

**Sponsored by: the U.S. National Institute on Aging,
the United Nations Population Fund (UNFPA), New Delhi, and
the Indian National Science Academy**

Conference Objectives

- ◆ *To assemble leading scientists from around the world to present the latest trends in population aging in Asia.*
- ◆ *To raise awareness of the important contributions that science can make in informing policy challenges associated with rapid population aging.*
- ◆ *To discuss the potential for greater international scientific collaboration to address the issues of population aging and in particular, the value of cross-national research organized as a cooperative venture.*
- ◆ *To engage senior Asian policymakers and planners in dialogue on the above issues and to discuss how additional science could further support the policy development process.*
- ◆ *To explore the potential for national academies of science to promote these objectives.*

DRAFT AGENDA

Monday, March 14, 2011

9:30 am – 10:30am

Opening of the Conference

Chair: Minister of Health, Govt. of India (*10-15 minutes*)

- Secretary, Ministry of Health, Govt. of India
- P.N. Tandon, Past President, INSA
- Krishnan Lal, President, INSA
- F. Ram, Director, IIPS, Mumbai
- Michael Clegg, Foreign Secy., US NAS
- Richard Suzman, Director, Division of Behavioral and Social Research, National Institute on Aging, USA
- Marc Derveeuw, Representative, UNFPA, India
(*5 minutes each*)

10:30 am – 11:30 am

Session 1: Preparing for the Challenges and Opportunities of Population Aging in Asia

Chair:

P.N. Tandon – to introduce the joint Academies report
(*5 minutes*)

Keynote Talk:

Preparing for Population Aging in Asia: Strengthening the Scientific Basis of Policy Development
– James P. Smith, Rand Corporation, USA
(*20 minutes*)

Overview Talk on LASI:

Longitudinal Aging Study in India: Vision, Design, and Implementation
– David Bloom, Harvard University
(*20 minutes*)

11:30 am – 12:00 pm

Tea

12:00 pm – 1:00 pm

Session 2: Roundtable Discussion with Policymakers

Chair: Montek Singh Ahluwalia, Deputy Chairman, Planning Commission, Government of India.

Or

DRAFT AGENDA

V.M. Katoch, DG, ICMR & Secretary, Dept. of Health Research,
Government of India.

Co-chair: Moneer Alam, Institute of Economic Growth, New Delhi
(5 minutes each)

Roundtable Participants:

- Secretary, Dept. of Social Welfare & Social Justice, Govt. of India.
- K.M. Satyanarayana, UNFPA, India
- Poonam Singh Khetrpal, Deputy Regional Director, WHO SEARO.
- Mohini Giri, HelpAge India.
- Mansyur Ramly, Head of Research and Development, Ministry of National Education, Indonesia
- David Bloom, Harvard University

1:00 pm – 2:00 pm

Lunch

2:00 pm – 3:30 pm

Session 3: Income, Savings, Pensions, and Wealth

Co-chairs:

- Hidehiko Ichimura, University of Tokyo
- Zhenzhen Zheng, Chinese Academy of Social Sciences
(5 minutes each)

Papers:

- (1) “Population Aging, Intergenerational Transfers, and Economic Growth: Asia in a Global Context”
– Andrew Mason, University of Hawaii (with Ron Lee)
- (2) “Economic Well-Being of Older Indians: Measures, Determinants, and Implications”
– Ajay Mahal, Harvard University and S.K. Mohanty, IIPS, Mumbai, et al.
- (3) “China’s population aging and social insurance program reform: Policy issues and options”
– Xuejin Zuo, Shanghai Academy of Social Sciences

(20 minutes each)

3:30 pm – 4: 00 pm

Tea

DRAFT AGENDA

4:00 pm – 5:30 pm **Session 4: Changing Roles and Responsibilities of the Family**

Co-chairs:

- M. Charian, HelpAge India
- Mayling Oey-Gardiner, University of Indonesia
(5 minutes each)

Papers:

(1) “Family, Social Networks, and Population Aging in India” –
Lisa Berkman, Harvard University and T.V. Sekher, et al.

(2) “Households Dynamics and Living Arrangements of the
Elderly: Evidence from a Longitudinal Survey”
– Firman Witoelar, World Bank (with Bondan Sikoki and
N. Wayan Suriastini)

(3) “The Effect of Social Interactions on Cognitive Functions of
the Elderly: Evidence from CHARLS”
– Yaohui Zhao, Peking University (with Yuqing Hu and
Xiaoyan Lei)

(20 minutes each)

5:30 pm Adjourn

7:30 pm – 9:30 pm Dinner

DRAFT AGENDA

Tuesday, March 15, 2011

9:00 am – 10:30 am **Session 5: Labor Force Participation and Retirement**

Co-chairs:

- Amitabh Kundu, JNU, New Delhi
- Xuejin Zuo, Shanghai Academy of Social Sciences
(5 minutes each)

Papers: (1) “Work Participation, Ageing and Later Life Health: Are they Mutually Interlinked?”
 – Arup Mitra and Moneer Alam, Institute of Economic Growth, Delhi.

(2) Hidehiko Ichimura, University of Tokyo

(3) Ashima Gotal, Indira Gandhi Institute of Development Research, Mumbai

(20 minutes each)

10:30 am – 11:00 am Tea

11:00 am – 1:00 pm **Session 6: Health and Well-Being**

Co-chairs:

- P.N. Tandon, Past President, INSA
- Hiroko Akiyama, University of Tokyo
(5 minutes each)

Papers: (1) “Health of the Elderly in India: Challenges of Access and Affordability”
 – Srinath Reddy, Public Health Foundation of India

(2) “Life satisfaction of the Thai elderly: Preliminary research findings from Pilot HART”
 – Dararatt Anantasuwong, National Institute of Development Administration, Thailand (with Udomsak Seenprachawong)

(3) “Markers and Drivers: The Health of Older Indians”

DRAFT AGENDA

– P. Arokiasamy, IIPS, Mumbai and Jinkook Lee, Rand Corporation, USA, et al.

(4) Somnath Chatterjee, Team Leader, WHO, Geneva

(20 minutes each)

1:00 pm – 2:00 pm

Lunch

2:00 pm – 4:00 pm

Session 7: Science of Longevity/Science and Technology

Co-chairs:

- V.M. Katoch, DG, ICMR & Secretary, Dept. of Health Research, Govt. of India.
 - Marc Derveeuw, Representative, UNFPA, India.
- (5 minutes each)*

Papers:

- (1) Redesigning Communities for Aged Society
– Hiroko Akiyama, University of Tokyo
 - (2) Hilary Cronin, Trinity College Dublin
 - (3) R. Vijayalakshmi, IISc, Bangalore
 - (4) A.B. Dey, AIIMS, New Delhi
- (20 minutes each)*

4:00 pm – 4:30 pm

Tea

4:30 pm – 5:30 pm

Session 8: Roundtable Discussion on Strengthening Scientific Capacity for Aging Research

Co-chairs:

- M.K. Bhan, Secretary, DBT, New Delhi
or Bela Saha, ICMR, New Delhi
 - David Weir, University of Michigan
- (5 minutes each)*

Background presentation: Malay Majmundar, U.S. National Academy of Sciences
(10 minutes)

Roundtable Participants:

- R.S. Deshpande, Head of the Institute for Social and Economic Change, Bangalore

DRAFT AGENDA

- F. Ram, Director, IIPS, Mumbai
 - M.K. Thakur/BHU/Ishan Patro, Gawlior, India
 - Mansyur Ramly, Head of Research and Development, Ministry of National Education, Indonesia
 - Representative from Japan – to be decided.
-

5:30 pm – 6:30 pm

Session 9: Roundtable Discussion – Developing and Applying New Knowledge: Key Challenges and Next Steps

Co-chairs:

- Syeda Saiyidain Hameed, Member, Planning Commission Member (?) or Professor Kaushik Basu, Special Economic Advisor, Ministry of Finance (?)
- James P. Smith, Rand Corporation, USA

Roundtable Participants:

- David Bloom, Harvard University
 - Richard Suzman, Director, Division of Behavioral and Social Research, National Institute on Aging, USA
 - T.C.A. Anant, Secretary, Ministry of Statistics and Programme Implementation, Govt. of India or N.K. Sethi, Health Advisor, Planning Commission, Govt. of India.
 - Syeda Saiyidain Hameed, Member, Planning Commission Member (?) or Professor Kaushik Basu, Special Economic Advisor, Ministry of Finance (?)
 - Marc Derveeuw, Representative, UNFPA, India
 - Zhenzhen Zheng, Chinese Academy of Social Sciences
 - Hiroko Akiyama, University of Tokyo
 - Mayling Oey-Gardiner, University of Indonesia
-

6:30 pm

Adjourn

7:30 pm – 9:30 pm

Dinner

6	
幹事会	1 1 6

提 案

公開シンポジウム「社会科学統合データベースの構築と課題」の開催について

- 1 提案者 社会学委員会委員長、政治学委員会委員長、法学委員会委員長、
経済学委員会委員長、経営学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 社会学委員会・政治学委員会・法学委員会・経済学委員会・経営学委員会合同
社会科学統合データベース分科会
2. 共 催 東京工業大学社会理工学研究科
3. 日 時 平成23年3月19日(土) 13:00～16:00
4. 場 所 東京工業大学 西9号館7階715会議室
5. 分科会 同日に開催予定

6. 開催趣旨

公共事業や構造改革による成長戦略は、一定の成果は上げたものの巨額の財政赤字や格差拡大を帰結した。今求められているのは、科学・技術立国にふさわしい人材育成と雇用創出をプラットフォームとして、安全・安心、自由・公正、快適・幸福の3本柱を充実するエクセレント・ソサエティの実現である。このためには諸社会科学が総力を結集して、実証データにもとづいたソリューション研究の推進および文理の融合を含む分野横断的な研究が不可欠である。本シンポジウムでは社会諸科学で分散して試みられているデータベースを統合・整備しネットワーク化する試みを模索する。

7. 次 第

13:00～13:10 開会挨拶：今田高俊（日本学術会議第一部会員、社会科学統合データベース分科会委員長、東京工業大学大学院社会理工学研究科長・教授）

発表

13:10～13:40 「社会科学統合データベース・ソリューション網構築の方法と意義」
今田高俊（日本学術会議第一部会員、社会科学統合データベース分科会委員長、東京工業大学大学院社会理工学研究科長・教授）

13:40～14:00 「経済学から見た社会科学データベース・データアーカイヴ構築の提言」
樋口美雄（日本学術会議第一部会員、社会科学統合データベース分科会委員、慶應義塾大学商学部長・教授）

14:00～14:20 「グローバル社会における日本独自の経営学の在り方ー財務情報のインターネット上での開示のためのデータベース」

野口晃弘（日本学術会議連携会員、社会科学統合データベース分科会委員、名古屋大学大学院経済学研究科教授）

14:20～14:40 「法の国際化・グローバル化にともなう規範的演繹作業のためのデータベース構築」
池田真朗（日本学術会議第一部会員、社会科学統合データベース分科会委員、慶應義塾大学大学院法学部教授）

休憩

全体討論

14:50～15:50 「社会科学統合データベース・ソリューション網構築の意義」
コーディネーター・今田高俊

15:50～16:00 閉会挨拶：廣渡清吾（日本学術会議第一部長、社会科学統合データベース分科会委員、専修大学法学部教授）

8. 連絡先

社会科学統合データベース・コンソーシアム事務局

東京工業大学大学院社会理工学研究科 今田研究室

電話：03-5734-2268

E-mail: imada@valdes.titech.ac.jp

9. 関係部の承認の有無

第一部承認

7	
幹事会	1 1 6

提 案

「第2回先端フォトニクスシンポジウム」の開催について

1. 提案者 総合工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会 I C O分科会
2. 共 催：応用物理学会、電子情報通信学会、日本物理学会（予定）
3. 後 援：IEEE Photonics Society Tokyo Chapter（予定）
4. 日 時：平成23年4月22日（金）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂、会議室
6. 分科会の開催：有り
7. 開催趣旨：

「光」というキーワードをもつ各学会の最先端の話題を集めた講演会を開催し、光科学のインパクトやイノベーションを国内にアピールすると共に、光量子科学技術分野において、次世代を担う若手研究者の育成、新しい産業やコミュニティの創生を推進する。
8. 次 第：

13:00 主催者挨拶 後藤俊夫（日本学術会議第三部副部長・ICO分科会委員、中部大学）

矢川元基（日本学術会議第三部会員・総合工学委員会
委員長、東洋大学）

来賓御挨拶 文部科学省（予定）

13:15 招待講演 香取秀俊（東京大学）「光格子時計（仮題）」

13:50 招待講演 小池康博（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学）
「ポリマーフォトンクス（仮題）」

14:25 招待講演 兒玉了祐（大阪大学）「超高強度レーザ物理（仮題）」

15:00 招待講演 中沢正隆（日本学術会議連携会員、東北大学）「超高速
光通信（仮題）」

15:35 休憩

15:50 若手研究者によるポスタープレビュー

16:50 閉会挨拶 荒川泰彦（日本学術会議第三部会員・IC0分科会委員
長、東京大学）

（以後、ポスターセッションおよび懇談）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

10. 申し込み方法：連絡先

定員 300 名、参加費無料

下記 URL から事前登録をして下さい。

<http://www.nanoquine.iis.u-tokyo.ac.jp/sc.j/>

11. 問合せ先

伊東 一良（大阪大学）itoh@mls.eng.osaka-u.ac.jp

8	
幹事会	1 1 6

提 案

公開シンポジウム「グローバル化時代の高校地理歴史科改革を求めて（仮）」の
開催について

- 1 提案者 心理学・教育学委員会委員長、史学委員会委員長、
地域研究委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同
高校地理歴史科教育に関する分科会
2. 日 時 平成23年4月23日（土）13：00～17：00
3. 場 所 日本学術会議講堂
4. 分科会 開催予定
5. 開催趣旨

2006 年秋に発覚した高校における世界史未履修問題の解決策を二つの
面で検討する。第一は、現行科目内での教授法の改革をめざす短期的改
革案で、第二は、「地理基礎」及び日本史と世界史を統合した「歴史基礎」
の新科目の創設を提案する長期的改革案の二案について高校教員やメデ
ィアなどとの意見交換を進める。

6. 次 第

司会 木村茂光（日本学術会議第一部会員・第一部幹事・高校地理歴
史科教育に関する分科会委員・東京学芸大学教授）

開会挨拶 小谷汪之（日本学術会議第一部会員・史学委員会委員長・
東京都立大学名誉教授・）

報告者 油井大三郎（日本学術会議第一部会員・高校地理歴史科教育
に関する分科会委員長・東京女子大学教授）

山口幸男（日本学術会議特任連携会員・高校地理歴史科教育
に関する分科会委員・群馬大学教授）

高橋昌明（日本学術会議連携会員・高校地理歴史科教育に関
する分科会委員・神戸大学名誉教授）

井田仁康（日本学術会議特任連携会員・高校地理歴史科教育
に関する分科会委員・筑波大学大学院教授）

閉会挨拶 未定

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

9	
幹事会	1 1 6

提 案

公開シンポジウム「生物多様性をめぐる科学と社会の対話 in 南東北」の 開催について

1. 提案者 統合生物学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：日本学術会議統合生物学委員会、岩手県一関市教育委員会、久保川イーハートーブ自然再生協議会
2. 日 時：平成23年5月15日（日）13：30～17：10
4. 場 所：ベリーノホテル一関
(岩手県一関市山目三反田 179)
5. 委員会の開催：委員会開催予定
6. 開催趣旨：

統合生物学は、遺伝子から生態系までの生物学的階層における複雑で動的な生物のシステムを、生命史・進化の視点を重視して科学的に解明する基礎科学分野を広く含み、生物多様性を直接的に研究対象とする分野であり、生物多様性の保全、自然再生などに関する社会的な課題とその解決に寄与する応用分野としての保全生態学を含む。

2010年10月に愛知県名古屋市で開催された生物多様性条約第10回締約国会議では、日本の議長国としての采配が効を奏し、名古屋議定書、新戦略計画（愛知目標を含む）、SATOYAMA イニシアティブほか、多くの重要な文書が採択された。さらに12月の国連総会では、2011年から2020年までを「国連 生物多様性のための10年」にするとの日本の提案が採択された。このように、日本は、この分野ですでに国際的なリーダーシップを発揮しはじめているが、それをいっそう強固なものとするためには、発展途上国の援助のみならず、新戦略計画の遂行において、世界の

模範になる優れた実績をあげることが必要である。愛知目標の冒頭の5つの具体的目標を括る重要な「戦略目標」は、「生物多様性の主流化」である。生物多様性の主流化にあたって、これまで以上に、生物多様性に関する科学と社会の対話が求められる。統合生物学委員会は、活発な対話に寄与するシンポジウムを、次のような具体的な目的のもとに開催する。

- 1) 統合生物学分野における生物多様性研究の最新の成果をわかりやすく社会に伝える。
- 2) 統合生物学委員会「生物多様性の保全と持続可能な利用に関する学術分野からの提言」を普及する。
- 3) 生物多様性の保全・再生・活用に関する地域の取組に関して多様な主体間で情報交換をすることを通じて、統合生物学の役割と今後の発展方向を探る。

本シンポジウムを通じて統合生物学の今の姿を社会に伝えるとともに、「さとやま」の生物多様性の保全・再生・持続可能な活用のための取組に関する情報を交換することを通じて、統合生物学委員会の提言が、現在、急速に深刻化する生物多様性の危機に適切に対処し持続可能性を確保するための課題と解決の方向性を探るうえで社会的な意義を有することを確認し、今後の委員会活動をいっそう活発に展開するための契機とする。

7. 次 第：

13:30～13:40 開会にあたって

日本学術会議統合生物学委員会から 鷲谷いづみ（日本学術会議第二部
会員、統合生物学委員会委員長）

挨拶 開催地を代表して 藤堂隆則（一関市教育長）

13:40-15:40 第一部 リレートーク 統合生物学が切りひらく生物多様性研究の最前線

- ・ 世界に花が咲いた日 西田治文（日本学術会議連携会員、
統合生物学委員会幹事）
- ・ 生命史 40 億年に起こった大事件 美宅成樹（日本学術会議連携会員、
統合生物学委員会委員）
- ・ 微生物の生物多様性を訪ねて 今中忠行（日本学術会議第三部会員、
統合生物学委員会委員）
- ・ 深海：生物多様性のゆりかご 北里 洋（日本学術会議第三部会員、
統合生物学委員会委員）
- ・ 飛べなく進化した鳥類の悲劇 松本忠夫（日本学術会議連携会員、

- ・生物行動の多様性を科学する 長谷川真理子（日本学術会議連携会員、
統合生物学委員会委員）
- ・動物の心と人の心 長谷川壽一（日本学術会議第一部会員、
統合生物学委員会委員）
- ・日本列島人の多様性 斎藤成也（日本学術会議第二部会員、
統合生物学委員会副委員長）

15:40～15:50 休憩

15:50～16:05 第二部 統合生物学委員会からの提言

愛知目標と「生物多様性の保全と持続可能な利用のために：学術分野からの提言」

鷺谷いづみ（日本学術会議第二部会員、統合生物学委員会委員長）

16:05～16:45 第三部 地域からの報告

- ・久保川イーハートープ自然再生協議会の総合的「さとやま」再生
久保川イーハートープ自然再生協議会 千坂げんぼう
- ・中・高校生があつめる「さとやま」生物多様性情報
自然再生を試みる会 ビオトープ孟子・有本智／向陽中学校 理科部

16:45～17:10 総合討論

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

1 0	
幹事会	1 1 6

提 案

「労働・雇用と安全衛生に関わる諸システムの再構築を一働く人の健康で
安全な生活のために一」の開催について

1. 提案者 労働・雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催：労働・雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会
2. 共 催：日本産業衛生学会
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成23年5月20日（金） 16：00～18：00
5. 場 所：ホテル・アジュール竹芝（東京都港区海岸 1-11-2）
6. 委員会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

労働環境をめぐる状況は極めて厳しい。特に世界的な経済情勢の変化から非正規雇用労働者の大量失職が相次いで報道され、一昨年末には住居を失った労働者の「派遣」村が出現し、自殺者は過去13年間、年間3万人を越え失業や労働との関係が示唆される。職場の安全衛生の課題はアスベストからメンタルヘルスまでカバーすべき領域が広い上、従前から労働時間や、低い女性労働者の地位など我が国では大きな課題が残っている。

一方、今日、労働雇用の影響は労働者個人にとどまらずその家族や地域社会などを含めて日本全体に及ぶ。労働者の生活や健康や安全の問題は社会の発展や持続性にも直結しており、単に短期的な経済的問題として捉えるのみならず、日本の将来の在り方を深く見据えて考えるべき重要な課題である。

しかし過去 30 年、日本学術会議では労働雇用環境と働く人の健康や安全の問題は一度も提言等が出されていなかった。そこで本課題別委員会が発足し、海外の最近の動向を含めて広範な内容の審議を行い提言の準備をしている。

今回の公開講演会は、日本産業衛生学会と共催で、産業保健従事者、一般市民との交流を通して、日本学術会議からの社会への提言がより力を発揮できるようになることを目指すものである。意見交換を通して、さらにより良い今後のシステム再構築に結び付けたいと希望している。

8. 次 第:

司会者 小林 章雄（日本学術会議連携会員、労働・雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会幹事、愛知医科大学教授）
矢野 栄二（日本学術会議特任連携会員、労働・雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会幹事、帝京大学教授）

開会の挨拶 学術会議における審議経過と「提言」（印刷物）の紹介

岸 玲子（日本学術会議第二部会員、労働・雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会委員長、北海道大学特任教授）

① わが国の労働時間と過重労働の問題——労働法の立場で

和田 肇（日本学術会議連携会員、労働・雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会副委員長、名古屋大学教授）

② 国際労働基準と企業の社会的責任（CSR）

吾郷 眞一（日本学術会議第一部会員、労働・雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会委員、九州大学教授）

③ 今後の産業保健サービスのあり方

小木 和孝（日本学術会議特任連携会員、労働・雇用環境と働く人の生活・健康・安全委員会委員、労働科学研究所主幹研究員）

④ 新しい産業民主主義の構築へ

労働政策研究・研修機構統括研究員 濱口桂一郎

9. 関係部の承認の有無：第一部、第二部、第三部承認

10. 申し込み方法・連絡先

第 84 回日本産業衛生学会事務局

杏林大学医学部 衛生学公衆衛生学教室内

〒181-8611 東京都三鷹市新川 6-20-2

TEL: 0422-47-5512 内線 3454/FAX: 0422-44-0841

E-mail: jsoh84@ks.kyorin-u.ac.jp

1 1	
幹事会	1 1 6

提 案

公開シンポジウム「新しい社会的リスクへの対応ー比較の中の日本ー」の開催について

- 1 提案者 政治学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議政治学委員会政治過程分科会
日本比較政治学会
2. 日 時 平成23年6月18日（土）13：30～15：30
3. 場 所 北海道大学（札幌キャンパス）
4. 分科会の開催 なし

5. 開催趣旨

脱工業化の進展にともない、これまで人々の生活保障を支えてきた雇用と家族の安定が揺らいだ状況は、「新しい社会的リスク」という言葉で表される。新しい社会的リスクに対応するため、西ヨーロッパ・北欧の福祉国家の多くは、家庭と仕事の両立を可能にするための公的保育・介護の拡大や、若年者の雇用促進のための職業訓練の充実といった新たな施策を採用すると同時に、年金、失業保険、生活保護など既存の社会保険・公的扶助プログラムの一部削減や市場原理の導入などを行っている。

少子高齢化や非婚化の進行、虐待や教育崩壊など家族や子どもの危機が取りざたされる日本においても、新しい社会的リスクへの対応は政策課題となっている。日本政治は、家族主義的福祉レジームの機能不全、教育に関する公私の間の新たな役割分担、そして地域コミュニティの福祉供給機能の再構築といった課題に向き合っている。しかし、先行研究の多くはヨーロッパ諸国にのみ注目しており、日本における新しい社会的リスクの現れ方やそれへの対応の特徴を明らかにしようとする試みは不十分である。

本シンポジウムでは、新しい社会的リスクをめぐる展開しつつある日本の政治過程の一端を比較の中で明らかにすることを目的とし、日本の事例をとりあげる2つの報告と、スコットランドの経験から日本へのインプリケーションを探る第3の報告とを組み合わせる。

6. 次 第

【司 会】小林良彰（日本学術会議第一部会員・政治過程分科会委員、慶應義塾大学）
【報告者】

- ① 辻由希（京都大学）

「日本型福祉レジームの再編と家族ケアの社会化を中心にー」

- ② 徳久恭子（立命館大学）
「日本型福祉・生産レジームの再編と教育」
- ③ 渕元初姫（法政大学）
「スコットランド型福祉国家の再編と地域社会－社会的包摂政策をめぐって」

【討論者】

新川敏光（日本学術会議連携会員・政治過程分科会委員長、京都大学）

質疑応答

7. 連絡先

辻由希（京都大学） yukitsuji@live.jp

8. 関係部の承認の有無

第一部承認

1 2	
幹事会	1 1 6

提 案

第7回構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム (JCOSSAR2011 : The Seventh Japan Conference on Structural Safety and Reliability) の開催について

1. 提案者 土木工学・建築学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催： 日本学術会議 土木工学・建築学委員会
2. 共 催： 安全工学会、地盤工学会、土木学会、日本機械学会、日本建築学会*、日本航空宇宙学会、日本材料学会、日本船舶海洋工学会
(*印：幹事学会)
3. 日 時： 平成23年10月12日(水)～10月14日(金) (3日間)
4. 場 所： 日本学術会議講堂(東京都港区六本木7-22-34)
5. 開催趣旨：

本シンポジウム(JCOSSAR2011)は、構造物の安全性・信頼性に関する諸問題について、多くの専門領域にまたがる幅広い研究発表・討論を通して、学術や技術レベルの向上を図ることを目的に開催される。主催は日本学術会議メカニクス・構造研究連絡委員会ならびに人間と工学研究連絡委員会で、多くの関係学協会の主催・協賛を得て実施された。国際的な関連会議としてはICOSSAR(International Conference on Structural Safety and Reliability)が4年ごとに開催されているが、その中間年に国内シンポジウム(JCOSSAR)を開くという構想のもとに、1987年12月に第1回構造物の安全性および信頼性に関する国内シンポジウムが開催され、多大な成功をおさめた。今回はその第7回目のシンポジウムであり、ICOSSARとの関連では第10回(2009年、日本・大阪)と第11回(2013年、米国・New York)の中間にあたる。このようにJCOSSARとICOSSARが2年ごとに交互に開催され、構造物の安全性や信頼性に関する国内および海外の研究が持続的に活性化されることは、誠に喜ばしいことである。

ここで対象とする構造物は、土木構造物、建築構造物、機械、産業・エネルギープラント、海洋構造物、船舶、自動車、鉄道車輛、航空機、宇宙機器など多岐にわたるが、それらの安全性・信頼性に関わる共通の課題として、材料・

構造部材・構造システムの信頼性理論、荷重の評価、設計・製作・施工の管理、既存構造物の維持・管理、自然災害と人為的原因による事故に対するハザードの予測とリスク評価およびその対策などが約 200 編の発表を通して幅広く活発に討議されることを期待している。また、シンポジウムにおいては、これらの分野において海外から基調講演者を招待して講演を頂くとともに、8 共催学会の横断的な情報交換を一層活性化する目的で、「多分野における信頼性技術の普及の現状と課題（仮称）」と題したパネル討論を実施予定である。

6. 次 第（予定）：

10 月 12 日

10:00-11:45 一般発表

13:00 開会の挨拶 濱田政則（日本学術会議第三部会員・土木工学・建築学委員会委員長）

13:10 基調講演 「米国における地震リスク管理の現状（仮題）」
Dr. R. K. McGuire (Risk Eng. Inc., USA)

14:30-16:00 一般発表

16:15-17:45 一般発表

10 月 13 日

10:00-11:45 一般発表

13:00 基調講演 「確率論的力学の現状と応用（仮題）」
未定 (from Europe)

14:30-17:30 パネル討論
「多分野における信頼性技術の普及の現状と課題（仮称）」
小野徹郎（日本学術会議連携会員・土木工学・建築学委員会委員）

18:00-20:30 懇親会

10 月 14 日

10:00-11:45 一般発表

13:00-14:45 一般発表

15:00-16:45 一般発表

16:45 閉会の挨拶

7. 関係部の承認の有無：第三部承認

8. 分科会の開催：無し

1 3	
幹事会	1 1 6

提 案

「科学・技術フェスタin京都2011」の開催

- 1 提案者 会長
- 2 議案 標記イベントについて、下記のとおり開催すること。
- 3 提案理由 広く一般に科学・技術の成果を周知し、関心を高めるとともに、国民の声を国の政策や研究開発機関における活動に反映することをコンセプトとしている「科学・技術フェスタin京都2011」は、日本学術会議の役割の一つである「科学リテラシーの普及・啓発」に資するため。

記

- 1 主催
内閣府、総務省、厚生労働省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、日本学術会議、科学技術振興機構、新エネルギー・産業技術総合開発機構、情報通信研究機構、日本学術振興会、理化学研究所、産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、日本原子力研究開発機構、宇宙航空研究開発機構、海洋研究開発機構、国立科学博物館、高等専門学校機構、健康・栄養研究所、循環器病研究センター、精神・神経医療研究センター（以上調整中）、京都市、国立京都国際会館
- 2 開催日時
平成23年12月17日（土）～18日（日）
- 3 開催場所
国立京都国際会館
住所：京都市左京区宝ヶ池 電話：075-705-1234（大代表）
- 4 開催趣旨
科学・技術コミュニケーション活動の代表的な祭典として、小・中・高校生などの若者からお年寄りまで、一般国民を対象とし、オールジャパン体制

で、最先端の科学・技術の成果などを国民にわかりやすく発表すると共に、国民と科学・技術に関わる者が直接対話する双方向のコミュニケーションを実現し、国民の声を、国の政策や研究開発機関における活動に反映することを目指す。

5 主な内容(予定)

科学・技術に関する関心を高める講演会・シンポジウムや、最新の科学・技術成果に関する展示・体験、科学・技術教室など。

6 備考

昨年度の「科学・技術フェスタin京都2010」も日本学術会議は主催者の一機関として名を連ねた。

1 4	
幹事会	1 1 6

提 案

国内会議の後援

1 提 案 者 会 長

2 議 案 後援の依頼について回答すること。

3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
土と肥料の講演会 ①主催：社団法人日本土壌肥料学会 ②期間：平成23年4月4日 ③場所：学士会館	社団法人日本土壌 肥料学会会長	第二部
呼吸の日記念フォーラム 2011 ①主催：社団法人日本呼吸器学会、社団法人日本医師会、 公益財団法人結核予防会 ②期間：平成23年5月29日 ③場所：日本医師会館大講堂	社団法人日本呼吸 器学会理事長 社団法人日本医師 会会長 公益財団法人結核 予防会理事長	第二部
第11回グリーン・サステイナブル ケミストリー シンポジウム ①主催：グリーン・サステイナブルケミストリーネットワーク ②期間：平成23年6月2日・3日 ③場所：早稲田大学・国際会議場	グリーン・サステイ ナブルケミストリ ーネットワーク会 長	第三部